

## 社会主義への具体的な道は幾千万人の経験が示す

われわれは、エンゲルスが死ぬすこしまえに農民問題についてかたったことに、読者の注意を促そう。エンゲルスは、社会主義者は小農民を収奪しようとは考えていない、社会主義的機械化農業の優越点は**実例の力**によってのみ、小農民に明らかになるであろう、と強調したのである〔第17巻、447ページ〕。

いま戦争は、実践的に、まさにこの種の問題にロシアを当面させている。家畜と農具がたりない。だから、それを没収しなければならないし、高度の技術をもつ農場を「分割」してはならない。

このことを農民は理解しはじめている。必要がそれを理解させたのである。戦争がそれを理解させたのである。なぜなら、家畜や農具は、どこでも手にはいらないからである。家畜や農具を節約しなければならない。そして、大経営——これこそ、家畜と農具の点でも、その他の多くの点でも、労力を節約することを意味するのである。

農民は、自分の小経営をのこしておいて、それを平準化し、定期的に均分割替をやりたいとのぞんでいる。……そうさせておくがよい。分別のある社会主義者なら、だれ一人、このことで貧農と争いをおこしはしないであろう。土地が没収されれば、**したがって**銀行の支配がくつがえされれば、家畜や農具が没収されれば、**したがって**資本の支配がくつがえされれば、そうなれば、**中央にプロレタリアートの支配があり**、政治権力がプロレタリアートの手にうつるばあいには、あとのことは**ひとり**でにでき、「実例の力」の結果として成立ち、実践そのものによって示唆されるであろう。

政治権力をプロレタリアートにうつすこと、これこそ問題の核心である。そうすれば、242通の要望書の綱領のうちの本質的なもの、基本的なもの、主要なものはすべて**実現できる**ようになる。ところで、これがどのような修正を受けて実現されるかということは、生活がしめすであろう。それは重要なことではない。われわれは空論家ではない。われわれの学説は、教条ではなくて行動の手引である。

マルクスにせよマルクス主義者にせよ、社会主義への道を具体的に知りつくしていると、われわれは主張するものではない。そういうことはたわごとである。われわれは、この道の方向を知っており、どういう階級勢力がこの道を導くかを知っているが、しかし、具体的には、実践的には、**幾千万**の人々がこの仕事にとりかかるときに、彼らの経験のみがこれをしめすであろう。

農民の同志諸君、労働者を信頼したまえ、資本家との同盟を断ち切りたまえ！ 諸君は、労働者と緊密に同盟してのみ、242通の要望書の綱領を実際に実現しはじめることができる。資本家と同盟し、エス・エルに指導されては、諸君は、この綱領の精神に立った、断固たる、決定的な歩みを、けっして**ただの一步**も見ることができないであろう。

しかし、諸君が、都市労働者と同盟して資本と容赦なくたたかいながら、242通の要望書の綱領の実行に**着手**するときには、全世界が、諸君とわれわれとをたすけにやってくるであろう。そのときには、この綱領の成功は——この綱領の現在の定式での成功ではなく、その核心の成功は——保障されるであろう。そのときには、資本の支配と賃金奴隷制との終りがやってくるであろう。そのときには、社会主義の国、平和の国、勤労者の国がはじ

まるであろう。 ※本文中の…… は原文のまま

第 25 卷 P306~307 『政論家の日記から』

『ラポーチー』第六号、1917年9月11日（8月29日）

## ポイント

政治権力をプロレタリアートにうつすこと、これこそ問題の核心である。そうすれば、本質的なもの、基本的なもの、主要なものはすべて実現できるようになる。ところで、これがどのような修正を受けて実現されるかということは、生活がしめすであろう。それは重要なことではない。われわれは空論家ではない。われわれの学説は、教条ではなくて行動の手引である。

マルクスにせよマルクス主義者にせよ、社会主義への道を具体的に知りつくしていると、われわれは主張するものではない。そういうことはたわごとである。われわれは、この道の方向を知っており、どういう階級勢力がこの道を導くかを知っているが、しかし、具体的には、実践的には、幾千万の人々がこの仕事にとりかかるときに、彼らの経験のみがこれをしめすであろう。

青山の意見……「経験」を集約する仕組み、by the people を実現するための仕組みが重要である。